

令和元年度博物館施設評価集計シート

1. 数値目標による評価
(1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
昨年度2～3月分の数字を足して算出	達成見込

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	113,438	人	未達	5か年計画の目標数値	
				112,937	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	113,150	人	未達	基準値:113,150人 目標参考値:110,445人	
				107,802	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	915	件	未達	基準値:738件 目標参考値:915件(前年実績値)	
				510	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	13,205,500	円	未達	当該年度予算計上額	
				12,288,650	円			

(2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
昨年度2～3月分の数字を足して算出	達成見込

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	企画展・テーマ展の入場者数	56,790	人	未達	基準値:45,419人 目標参考値:56,790人	
				42,791	人			
2	利用状況	出前授業	出前授業の実施校数	30	校	達成	基準値:20校 目標参考値:30校	
				31	校			
3	利用状況	団体利用	学校団体の博物館利用校数	229	校	未達	基準値:222校 目標参考値:222校	
				208	校			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	570	点	達成	目標参考値:570件(前年実績値) H29は過度に大きい数字のため	
				876	点			
5	満足度	常置アンケート	アンケートでの展示満足度	80	%	達成	8割の満足	
				100	%			
6	満足度	講座等アンケート	アンケートでの講座等受講者満足度	80	%	達成	8割の満足	
				87.4	%			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ① 鉄砲山古墳の整理作業 ② 奥の山古墳の整備工事 ③ 埼玉古墳群整備基本計画策定の検討 ④ 収蔵資料等の積極的な公開・活用 ⑤ 収蔵資料等の適切な保存 ⑥ 企画展の開催 (テーマ展「埼玉の平安一兵の目覚め」、最新出土品展「地中からのメッセージ」、企画展「徹底検証！埼玉古墳群」、ほるとま展、テーマ展「埼玉の中・近世」) ⑦ 講座の開催 ⑧ 体験事業の実施 ⑨ 出前授業「なるほど古墳時代」と自由研究相談窓口「調べて分かる埼玉古墳群」の実施 ⑩ 夏休みの自由研究対応 ⑪ まが玉づくりをはじめとする各種体験事業の実施 ⑫ 学芸員による 団体案内解説 ⑬ オリパラおもてなしミュージアム；古代体験用写真撮影パネル制作、Wi-Fi環境整備 ⑭ 利用促進のための広報活動
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 鉄砲山古墳調査報告書の刊行 ② 奥の山古墳整備工事の実施 ③ 基本計画策定の検討材料となるマーケティングリサーチ実施 ④ 国宝武蔵埼玉稲荷山古墳出土品の公開 ⑤ 館内IPM作業(5月、6月、9月、10月、1月、3月) ⑥ テーマ展 23,820人、最新出土品展 16,291人、企画展 12,691人、ほるとま展 9,994人、テーマ展 1,434人 ⑦ さきたま講座 7回 518人 ⑧ 古代体験16回 550人など ⑨ 出前授業 31校 1,332人 ⑩ 自由研究相談窓口 451人 ⑪ まが玉セット販売個数 12,526個 ⑫ 学芸員による 団体案内解説 113件、延べ 2,880人
事業の成果	<p>事業実績は、「事業の実施状況」に記載のとおり。 上記重点事業のほか、特別史跡の答申に合わせ、11月の土・日にスペシャルガイドツアーを実施した。 また、12月には近隣小・中学校を対象に、古墳探検クイズを開催した。 さらに特別史跡昇格にあわせ、PRの幟旗、記念品等を作成した。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	25人 (9人)	総予算額 (人件費を除く)	35,500,000円	職員一人あたりの県民人口 (平成31年度)	29.3万人
収蔵資料総点数 (H31.3末現在)	2,313箱	事業経費 (上記の内数)	21,425,000円	利用者一人あたりのコスト (平成30年度)	303円
平成30年度 収集資料点数	10箱	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	13,728,000円 (7,514,000円)	県民人口に対する利用者割合 (平成30年度)	1.57%

(注)平成31年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,326,981人である

2. 共通項目

完了または順調に進捗している問題がない状態	A
着手状態ないし課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	館ミッション
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上に基づく
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	S43以来継続調査
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	資料調査時に適宜収集
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	整理・報告書作成
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	C	該当なし
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	収蔵資料管理要綱
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	忌避剤散布 収蔵庫清掃
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要綱
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	学芸会議等で周知
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	東文研研修等に参加
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	温湿度管理
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	収蔵庫定期清掃
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	モニタリング実施
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	忌避剤散布 収蔵庫清掃
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	データロガー利用
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明器具の使用
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	収蔵庫定期清掃時実施

	⑪	資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	収蔵庫定期清掃時実施
	⑫	資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	3か年計画で実施
	⑬	借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の更新
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	検索システム利用
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	博物館条例 管理規則
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	HPに公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	適宜活用
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	館外貸出
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	特別利用
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	HP情報更新
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	主要資料を公開
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	温湿度管理、忌避剤散布
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	内容・文字量・フォントに配慮
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	監視・警備員配置
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	開館中適宜巡視実施
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	ガイドブック刊行
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	6種類配架
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	A	展示解説等実施
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケートの集計・分析
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	分析後対応
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP公開・催事案内配布
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	HP／彩の国だより等
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話・電子申請・来館時等
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	子供・一般対象
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティア配置
学習	⑤	事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	説明・注意喚起・保険加入
	⑥	参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケート実施

支援事業	⑦	アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	アンケートの分析
	⑧	来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	体験工房・情報コーナー
	⑨	学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習・インターンシップ
県民との連携・協働	①	ボランティア制度を導入しているか	A	体験・解説・環境ボランティア
	②	ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア活動要領
	③	ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱
	④	ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	研修実施
	⑤	ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP・館報に掲載
	⑥	友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	秋祭りに地元NPO参加
	⑦	地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	さきたま祭り・鉄剣マラソン
調査研究活動	①	調査研究テーマを定めているか	A	年度当初にテーマ設定
	②	調査研究のための予算措置等に努力しているか	B	紀要印刷費・調査旅費
	③	調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	研修会等参加
	④	収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	研究会等参加
	⑤	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修会等参加
	⑥	地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	適宜実施
	⑦	学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	研究会等参加
	⑧	他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	古代歴史文化協議会
	⑨	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	講座・企画展・解説・紀要等
	⑩	調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	遺跡報告会
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	優先順位と予算で実施
	②	展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	重り・テグス等で転落防止
	③	危機管理マニュアルを整備しているか	A	危機管理マニュアル
	④	防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	消防避難訓練
	⑤	休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	B	館内休憩コーナーのみ
	⑥	レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車いす4・ベビーカー1
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設・設備点検実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用8台
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	階段手すり設置済
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	ピクトサインを活用
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	A	入館のしおり英語版
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏期開館時間延長
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	大型バス・普通車295台

施設 の 利 活 用	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	管理規則
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	HPに利用案内
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	講堂・レストハウス
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	講堂・レストハウス
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	さきたま秋祭り等
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	行田市郷土博物館等

3. 館別独自項目

さきたま史跡の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態ないし課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価 (A~C)	備考
史跡整備事業の実施と活用	①	外部からの指導・助言を得ているか。	A 整備協議会
	②	全体的な整備計画を策定しているか。	A H18基本計画策定
	③	情勢の変化に応じて、適宜見直しを図っているか。	A 整備協議会
	④	地元との定期的な意見交換を図っているか。	A 古墳公園づくり連絡会議
	⑤	担当職員を史跡関連の研修に参加させているか。	A 遺跡環境整備会議
	⑥	市町村等への整備研修会を開催し、技術や手法の普及を図っているか。	B 検討継続
	⑦	調査の現地見学会を実施しているか。	C
	⑧	史跡や整備に関する講座・講演会を行っているか。	A 考古学講座 遺跡査報告会
	⑨	整備事業の成果を各媒体を通じて広報しているか。	A 報道発表、当館H. P
	⑩	整備事業の成果を展示等を通じて公表しているか。	A 最新出土品展
公園整備と利活用	①	全体的な整備計画を策定しているか。	A 県土整備部策定
	②	公園利用についての諸規定があるか。	A 古墳公園利用規定
	③	公園が地域に利・活用されているか。	A さきたま火祭り等
	④	外部に利・活用を呼び掛けているか。	A 観光情報誌等情報提供
	⑤	担当職員を公園に関連する研修に参加させているか。	A 遺跡環境整備会議
考古体験事業の実施	①	考古の専門館としての体験メニューを複数用意しているか。	A まが玉づくり等9種
	②	安全に配慮しているか。	A 説明時に注意喚起等
	③	アンケートを実施して、参加者の意向を把握しているか。	A 事業ごとに実施
	④	適宜改善を図っているか。	A 適宜図っている
	⑤	外部からの出張事業の要請にもこたえているか。	A 出前授業実施
	⑥	様々な媒体を通じて情報を発信しているか。	A 情報発信件数 451件
企画展示事業の実施	①	考古の専門館としての企画展を実施しているか。	A 企画展開催
	②	最新の考古資料を展示・公開しているか。	A 最新出土品展開催
	③	学芸員による展示解説を行っているか。	A 企画展開催時毎日曜日
	④	展示図録・ポスター・リーフレット等の紙媒体を作成しているか。	A 展示ごとに作成
	⑤	考古に関する講座・講演会・調査発表会等を開催しているか。	A 関連講座開催
	⑥	アンケートを実施して、見学者の意向を把握しているか。	A 常置アンケートに項目設定
	⑦	展示情報を様々な媒体を通じて発信しているか。	A

4. 総合評価

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価	0	4	0
各館独自	数値目標による評価	2	0	4

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	87	2	1
各館独自	チェックリストによる評価	26	1	1

自己評価総括

評 価	<p>(1)全館共通項目</p> <p>【利用者数・常設展観覧者】年度前半は古墳ブームで快調に滑りだしたが、10月に台風による水害で大きく落ち込んだ。その後は特別史跡関連イベントなどの効果もあり観覧者が増加し再び前年度を上回ったが、世界駅なコロナウィルスの蔓延による影響で2月28日以降臨時休館を余儀なくされ、最終的に目標に到達できなかった。</p> <p>【事業情報の発信】対マスコミ情報発信は、従来イベントを中心に実施してきたが、実態として常に定員をオーバーする状況にあるので、今年度は意識的に減らした。</p> <p>【観覧料および事業等収入】観覧料・物販収入ともに臨時休館の影響で目標を達成しなかった。</p> <p>(2)館別独自項目</p> <p>【企画展・テーマ展の入場者数】2月末の状況は前年度を上回り、目標到達確実な状況であったが、臨時休館の影響で3月の入館者が0となり、目標に到達しなかった。</p> <p>【学校教育との連携】学校団体利用は微減。県教委の施策として行田市内の小学校との間で連携のモデル事業を行うため、一般の出前授業は受入れを少し抑制したが、それでも31校と目標値を達成した。</p> <p>【満足度】展示、講座等ともに高い満足度の評価を得ている。講座等は考古学や古墳に特化した内容の強みを生かし、リピーターも多く、常に定員を充足している。</p>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・予算減(国庫補助を含む)の状況下で、十分な古墳の調査が実施出来なくなっている。古墳を調査・整備し、情報発信してゆくことが史跡の博物館の生命線であるが、それが脅かされている。 ・まが玉セット販売は、繁忙期の工房の稼働率を考慮してもほぼ限界と思われる。 ・イベントではなく、博物館や古墳群そのものに対する情報発信にシフトする必要がある。
対 応 の 方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究、資料保存など基本的な機能を一層向上させていく。 ・学校教育や社会教育との効果的な連携を検討し実現していく。 ・史跡埼玉古墳群の調査研究、整備を進めるとともに広く情報を発信していく。 ・拡張した古墳公園の活用を通じて、古墳公園そのものへの入れ込み数の拡大を図る。

評価結果に対する外部コメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会
の意見

- 1 古墳ブーム、奥の山古墳、中の山古墳周辺の整備、特別史跡昇格等によって多数の入館者が見込まれていたところ、台風による水害や新型コロナウイルス対策によるイベントの中止、臨時休館等により目標値に達しなかったことは、やむを得ないことである。今後は、新型コロナウイルス対策等を考慮した取り組みをしていく必要もあるだろう。
- 2 このような危機的な時期を経験したことで、日常の訓練や体制整備といったリスクマネジメント、そして遭遇したときの対処方法(危機管理)を再検討するなど、今後の博物館運営に生かしてほしい。
- 3 さきたま史跡の博物館は、博物館活動だけを行っている他の県立館と違い、史跡の整備や管理の業務がある。その業務量は恐らく博物館業務の半分ほどを占めるのではなかと考える。しかし、それらの仕事は数値化が困難なために第三者から見れば事業量の把握が難しく中々評価しにくい面がある。事業量と効果について今後見える化を検討していただきたい。
- 4 さきたま古墳群に見学に来る人達の多くは、博物館利用者よりは史跡公園を楽しむために来る人もかなりの数あるのではないかと考えられる。一度、公園利用者の人数をカウントしてみたらどうか。
- 5 臨時休館中の博物館活動では、全国60以上の博物館で「おうちミュージアム」を立ち上げ、HP上で博物館について学べる工夫をしており、リンクをとおして連携していた。さきたま史跡の博物館のHPでは、「注目コンテンツ」コーナーで展示を動画で紹介するなど、休館中でも活動している様子が見られたが、今後県内の博物館や他県の博物館施設と連携した在り方も検討する必要があるだろう。
- 6 埼玉古墳群が特別史跡になったことを、もう少しアピールする必要がある。
- 7 埼玉古墳群は常に調査をしていて、継続的に整備が進んでいるのが大きなポイントなので、学芸員の調査・整備レベルの維持・向上を含めて、予算獲得などを進めてほしい。
- 8 情報発信について、常に定員をオーバーする状況なので意識的に回数を減らしたと評価欄に記されているが、職員だけで対応しきれない場合は、ボランティアを活用したり、イベントを時間差にしたりして対応すべきではないのか。さきたま史跡の博物館に興味・関心をもっている人を増やすべきである。
- 9 満足度について、高い満足度の評価(87.4%)を得ているとのことだが、アンケートの結果から満足していない(12.6%)ところは何かを分析し、次年度に生かしていく必要がある。
- 10 調査研究活動の「②調査研究のための予算措置に努力しているか」がB評価である。必要な予算が見積りよりどのくらい減額されているのか。減額されないようにするには、どうしたらよいか考えていく必要がある。